

## 静岡市建設工事の完全週休 2 日制に向けての基本方針

### ◆基本方針

建設業は、社会資本の整備の担い手であると同時に、社会の安全・安心の確保を担う我が国の国土保全上必要不可欠な『地域の守り手』です。人口減少や高齢化が進む中であっても、これらの役割を果たすため、これまでの『3K』のイメージを払拭し、魅力ある建設業の構築に向けて多様な働き方を実現し、多様な人材を呼び込むことが必要です。また、建設業は今後 10 年間で約 110 万人もの技能労働者がリタイアするという大量退職時代に直面する中、将来を担う人材（若手や女性）の確保は建設業全体にとっても最重要課題です。

静岡市は、建設関係従事者の著しい減少と、若者の建設業離れに対応するため、建設業の担い手確保・育成事業に積極的に取り組んでいます。その一環として、建設産業の担い手が長く、安心して働くことのできる職場環境の整備を目的に、ワークライフバランスの実現と土曜・祝日等を休工できる建設現場を目指すため、完全週休 2 日制を採用した建設工事の発注に積極的に取り組んでいきます。

### ◆取り組み内容

静岡市では、将来的に全ての建設工事が完全週休 2 日制を実現するため、受発注者がお互いに知恵を絞り、連携し、問題を着実にクリアしていくことが必要だと考え、市が発注する全ての建設工事を対象に下記の取り組みを実施していきます。

〈全件対象〉                   ： 将来的な完全週休 2 日制の実現に向け、長時間労働の削減と現場閉所日を可能な限り増やす

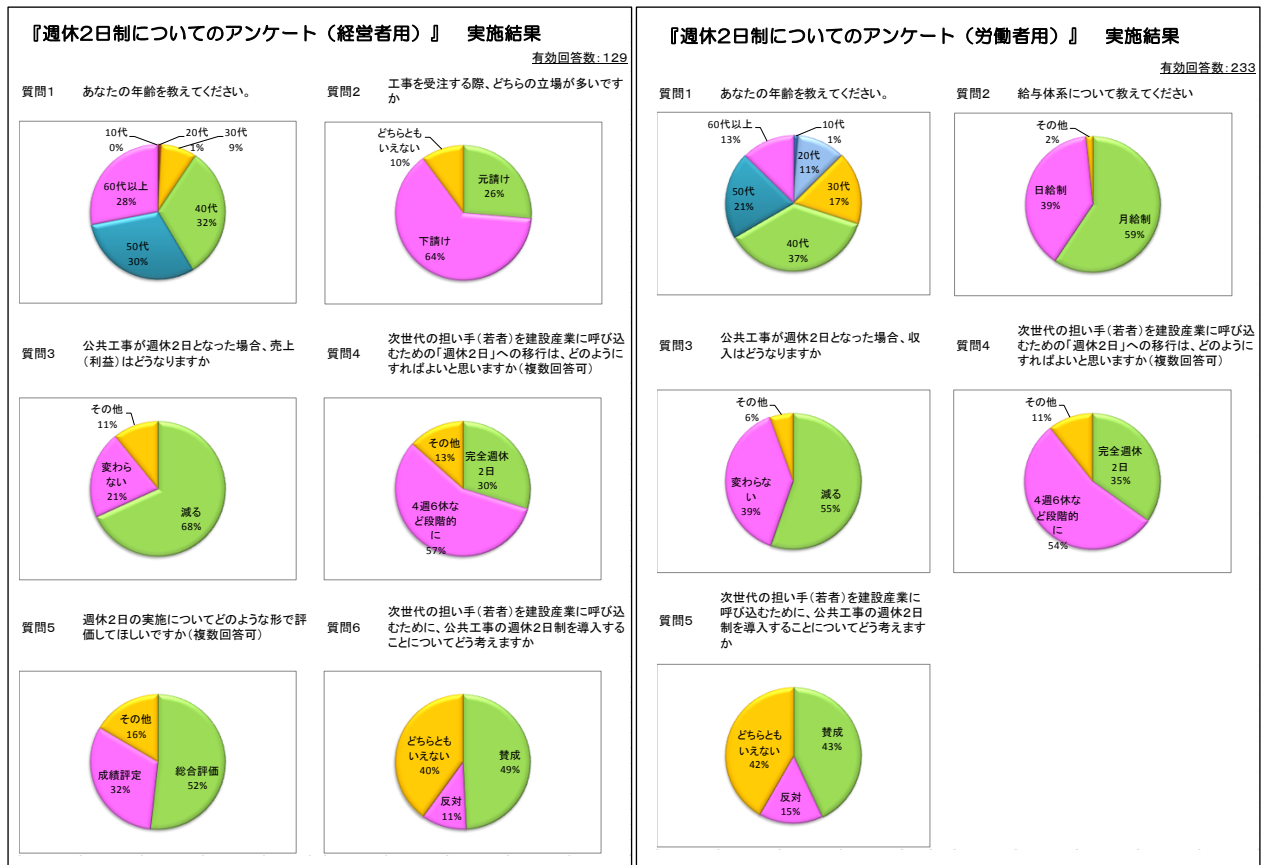
〈各課 1 案件以上〉： 平成 29 年度においては、4 週 6 閉所日確保モデル工事の発注に取り組む

※1. 上記の 2 項目について、実施内容を特記仕様書に記載（添付）します。

※2. 次年度以降の取り組みは、国や県等の動向により決定します。

◆参考資料

完全週休2日制を採用するにあたり、静岡市では建設産業に従事している企業の経営者と労働者に対して下記のようなアンケートを実施しました。(平成28年11月実施)



○本アンケート結果で注視すべき点

- ・質問3 公共工事が週休2日となった場合、売上（利益）または収入はどうなりますか？
  - 【経営者】 変らない：21% < 減る：68%
  - 【労働者】 変らない：39% < 減る 55%（日給制：39%、月給制 59%（質問2より））
- ・質問4 次世代の担い手（若者・女性技術者）を建設産業に呼び込むための「週休2日」への移行は、どのようにすればよいと思いますか？（複数回答可）
  - 【経営者】 完全週休2日：30% < 4週6休：57%
  - 【労働者】 完全週休2日：35% < 4週6休：54%

天候の影響による不稼働日等を反映している工期で発注した工事であっても、建設現場は突然の降雨等によって工程に狂いが生じてしまうことが多々あり、結果として休みは日曜日のみとなってしまうケースがほとんどというのが実態です。それが結果として『週休2日』に子供の頃から慣れ親しんだ若者の入職を阻む一要因になっているとの指摘もあります。